

## 特集 文化振興マスタープラン

巻頭言 8 文化立国の実現に向けて 樋口廣太郎

座談会 10

### 二一世紀の文化政策に期待すること

(出席者) 水上 忠 / 高階秀爾 / 如月小春 / 浅尾新一郎 / 林田英樹

論文 22 二一世紀に向けた

### メディア芸術の新たな展開

滝川精一

エッセイ 24 震災復興が文化振興に

### 示唆すること

新野幸次郎

26 文化振興マスタープランによせて

江戸京子

事例紹介① 28 厚木の子どもと舞台芸術

厚木市文化会館

事例紹介② 31 大垣市北校下

### 文化財愛護少年団の歩み

大垣市教育委員会

34 平成九年度(第一回)文化庁

### メディア芸術祭

文化庁文化部芸術文化課

資料 36 文化振興マスタープラン

### 文化立国の実現に向けて

文化庁

### カラー

4 天然記念物歳時記

十和田湖および奥入瀬溪流

表2 名作シリーズ

聖女カタリナノ神秘の結婚

表3 文化財紹介

吉井町筑後吉井

6 私と教育、私とつけ

フランソワーズ・モレンヤン

50 焦点—文教施策

60 中教審ニュース

68 インフォメーション

69 私の選んだ一冊

和田征士

70 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

神奈川県、長野県辰野町、

石川県小松市、沖縄県

72 科学はいま 宇宙科学研究所

74 現代スポーツあれこれ フットサル

76 行ってみよう やってみよう

国立赤城青年の家

78 海外教育ニュース

80 文学のふるさと 最後の將軍

82 鑑賞席

84 編集後記

# 二一世紀に向けた メディア芸術の新たな展開

キャノン販売株式会社代表取締役会長  
滝川精一

これまでに映画、マンガ、アニメーション、コンピュータ・グラフィックス、ゲームソフト、インターネットのホームページなどのメディア芸術が生まれてきたが、二一世紀に向けた情報ハイウェイとマルチメディアの時代にコンテンツ創作のためのメディア芸術はますます重要となってきた。

## 一 文化振興マスタープランの 新しい領域としての メディア芸術

今回の文化振興マスタープランの中で芸術創造活動の支援システム「アーツプラン21」の充実と並んでメディア芸術の振興諸施策を「メディア芸術21」と位置づけて大きく取り上げたことは、画期的なことであり喜ばしいことである。

アニメ、マンガ、ゲームソフト等の分野で日本は世界的に先行しており、海外

においても「MANGA」は世界語として通用し、日本のアニメは「ジャパニメーション」と呼ばれて広く愛されている。しかしながらハリウッド映画の巨大な規模や、最先端技術を見たり、あるいはピクサー社の「トイストーリー」を見れば、アメリカのメディア芸術の発展はすばらしいものであり、我が国のメディア芸術が先行の利を維持し続けるためにも、「メディア芸術21」の強力な展開は大いに期待されるものである。

コンテンツ・クリエイションに不可欠

なメディア芸術の振興は日本の経済の活性化にも貢献するものと思う。

## 二 マルチメディア映像・ 音響芸術懇談会

平成八年の春、文化庁からマルチメディア映像・音響芸術懇談会（以下懇談会という）を設けるので委員になってほしいという依頼を受けた。

私が財団法人画像情報教育振興協会（略称ICGアーツ協会）の理事長を務めているので委員の一人に選ばれたのであると思う、気軽にお引き受けした。

やがてその年の七月、第一回の懇談会が近づくとうとう座長を依頼されて今度は驚いた。委員の皆さんは著名なアニメ、マンガの作家、音楽家、コンピュータ・グラフィックスのクリエイター等専門家の先生方であり、会社経営が本業の私に座長が務まるとはとても思えなかった。しかし、関係者の皆さんの熱心で柔軟な対応に接しているうちにだんだん引き込まれ、結局座長を引き受けることになってしまった。

懇談会は平成八年七月二五日の第一回から平成九年六月二四日第六回まで「デジタル・コンテンツ産業の将来」（浜野保樹講師）、「デジタル・アートの振興」（高

城剛講師)、「映画、アニメーション、マンガの振興」(岡田斗司夫講師)等のレクチャーを題材にした討論、日本映画の危機、五〇万人に達するマンガ同人・コミケの活動、行政や経営に対する辛辣な批判等内容の豊富な討議が行われたが、誌面の都合上詳細な内容は省略させていた  
だくことにする。

懇談会のテーマはかなり広範囲にわたるものであるが、新規事業としてのメディア芸術祭とメディア芸術プラザ(ホームページによる情報提供支援)については具体的な実施計画を立案しなければならぬ。この二つの計画については懇談会と平行して別の打合せ会を設けて進めていった。メディア芸術プラザについてはまずメディア芸術祭が軌道に乗ってから文化庁とCGアーツ協会で具体的に取組むことになる。

### 三 第一回文化庁メディア芸術祭の開催

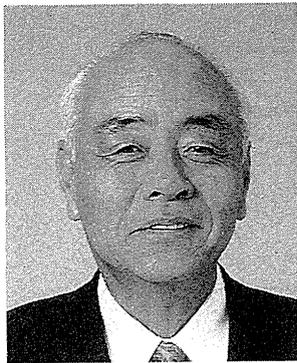
第六回懇談会において「二一世紀に向けた新しいメディア芸術の振興について」の提言がまとめられ、平成九年七月の文化政策推進会議の審議を経て、その骨子は「文化振興マスタープラン」に組み込まれた。

同日の推進会議に懇談会と平行して行

われていた事務局打合せで検討を続けてきた「第一回文化庁メディア芸術祭」の実施計画も報告され、いよいよメディア芸術祭は実行段階に入った。

今回デジタル・アートのインタラクティブ部門とノンインタラクティブ部門、アニメーション部門、マンガ部門の四部門からなる文化庁メディア芸術祭がこれまでの芸術祭、芸術選奨等の文化庁の文化支援活動に加わったことは日本の文化振興の歴史の上でも意義深いことであり、マルチメディア・コンテンツ・クリエイションの新しい領域にたずさわる人々にとつてまことに心強い文化振興策であるといえよう。

文化庁メディア芸術祭実行委員会(会長||文化庁長官、副会長||CGアーツ協会理事長、副会長||日本経済新聞社長)が



たきかわ・せいいち 岡山県に生まれる。財団法人画像情報教育振興協会(CGアーツ協会)理事長。文化政策推進会議委員。ハルビン工業大学名誉教授。平成八年藍綬褒章受章。著書に「起業家スピリット」、「天職ざんまい」等。

設けられ、運営委員会と審査委員会の委員も決まり、私も運営委員長を兼務することになった。平成八年十一月一日から平成九年一〇月三十一日までに制作あるいは発表された作品を対象に平成九年七月一日作品募集が開始された。

一〇月三十一日の締め切り日までに予想を超えて七三〇点の作品が集まり、メディア・アートへの関心の高さがよくわかった。海外にもついても十分に高い競争力をもっています。(河口洋一郎審査委員長)、「今回のメディア芸術祭を通して、国がメディア・アートを日本の文化として認めたことは関係者としてうれしい限りです。(里中満智子審査委員会主席)」というコメントが第一回メディア芸術祭が関係する皆さんによい雰囲気を受け入れられ、高い水準の作品が集まったことを物語っている。

平成一〇年二月二日、三日には新国立劇場において四部門を通して四つの大賞、一六の優秀賞の授賞式、作品展示が行われ、併せて協賛事業であるCGアーツ協会の全国学生CGコンテスト(応募作品八四八点)の授賞式、作品展示も行われた。関係者の皆さんの努力が気持ちよくクリエイターの人々に受け入れられたことは心からよろこばしいことであり、御同慶にたえないものである。

# 特集 ● 生涯学習施策 の 新たな展開

●巻頭言  
生涯学習施策一〇年と  
今後の展望

三浦朱門

●座談会  
生涯学習社会の  
構築に向けて

—(出席者) 有路 信/岩崎信夫/金丸直人  
河 幹夫/高橋牧人/ (司会) 寺脇 研  
●事例紹介 広島県教育委員会ほか

記念館めぐり◆ゆかりの地を訪ねて

大佛次郎記念館

私と教育、私とつげ

小平桂子アネット

都道府県発

◆教育・学術・文化・スポーツニュース

栃木県・鳥根県出雲町

長崎県佐々町・鹿児島県

## 編集後記

▽四年に一度開かれるサッカーのワールドカップがフランスで開幕しました。三二か国が参加して行われるこの大会、本誌が読者の皆様方のお手元に届くころには日本代表チームの試合結果が出ているかもしれません。

今大会はテレビの前で応援される方が多いと思いますが、四年後の二〇〇二年大会は、日本・韓国共同開催です。▽さて、今月号は今後の文化振興方策の基本的方向を示すものとして策定された「文化振興マスタープラン」を特集として取り上げました。心の豊かさを求める時代となり、文化への関心がますます高まっている中、最近の傾向として、美術館や博物館の利用者が女性を中心に増えているそうです。男性

は比較的年齢の高い方が多いというところですが、日ごろ多忙な方も、休日などを利用して足を運んでみてはいかがでしょうか。

また本誌では、この四月号から「記念館めぐり」という企画を始めました。これは、地域にゆかりのある人物の功績を顕彰する博物館、美術館等を紹介しているものです。今月は「福島市古閑裕而記念館」を紹介しましたが、全国各地にこのような記念館が多数ありますので、今後も紹介して参ります。ほかにも、名作シリーズや文化財紹介、天然記念物歳時記など文化に関する記事を毎月掲載しております。読者の皆様にとつて、文化に対する興味・関心を持つきっかけとなれば幸いです。

(K・M)

### 投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

- 「読者からのたより」投稿規定
  - ①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
- ※文章を一部手直しさせていただくことがあります。送り先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部
- ※電子メールでも受け付けております。宛先名「jiho@monbu.go.jp」
- 「文部時報読者アンケート」
  - 文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。宛先名「jiho@monbu.go.jp」

### コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様に紹介するため、インターネット等を利用して情報を提供しています。  
インターネットアドレス：  
<http://www.monbu.go.jp/>(半角入力)  
パソコン通信：  
GO コマンド(Nifty-Serve) } MONBUSHO  
Jコマンド(PC-VAN) }  
なお、パソコン通信による情報提供は、国立教育会館の協力を得て実施しています。

- 著作権所有——文部省©
- 発行所——株式会社 きょうせい
  - 本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
  - 本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
  - 電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成10年6月10日印刷  
平成10年6月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)  
年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。  
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。